



よみがえる刈谷城 ～500年の時を越えて～

刈谷城は、天文2年（1533）に徳川家康の生母・於大（伝通院）の父親である水野忠政により築城されました。江戸時代には水野勝成を初代藩主として、明治維新を迎えるまでに9家22人の譜代大名が藩主となり、刈谷のまちが形成されました。明治4年（1871）の廃藩置県後、刈谷城は、門や櫓、石垣に至るまでほとんどが取り壊され、近代の産業の発展とともに街並み^{やしろ}が変化し、城址としての歴史的景観は次第に失われていきました。

刈谷市は、刈谷城やその城下町を中心に、先人たちの優れた先見性とたゆみない努力により発展してきたまちです。近年の発掘調査と史料調査により、具体的な姿が明らかとなってきた今、ふるさと刈谷への愛着や誇りを育むとともに、刈谷の歴史を子どもたちやさらにその先の世代へ継承するため、令和15年（2033）の築城500年に向けて刈谷城の復元を目指します。

問 公園整備課（☎93-5195）ID1023188

整備イメージ図

歴史の証拠が語る刈谷城の姿

城絵図や史料の調査成果から建造物の様相が分かってきました。江戸時代中期までの城絵図には、本丸の北西と南東の隅に2層の櫓が描かれており、辰巳櫓（南東隅櫓）の両側には渡り廊下のような多門櫓が石垣とともに延びて西門や東門へと続いていたことが確認されています（図）。

また、平成21年度から令和8年度にかけて11回にわたる発掘調査を実施した結果、地盤を補強するための遺構（地固め遺構）などが検出されました。その配置は城絵図に描かれた西門から辰巳櫓を経て東門へ続く石垣の配置と整合することから、石垣の裾の部分のおおよその位置が判明しました（写真1）。

出土遺物として最も多かったのは瓦で、中には慶長期（1596～1615）までさかのぼるものもあったため、この時期に刈谷城が主に土塁や堀で構成されたいわゆる「土の城」から、高石垣^{かわらがき}や瓦葺建物を伴う「近世城郭」へ再整備されたと考えられます（写真2）。



図「刈谷城図（鳥羽城郭古図）」（部分）
（国立国会図書館蔵）



写真1 本丸の地固め遺構（破線内）



写真2 出土遺物

刈谷城の復元計画

復元年代 江戸時代初期（初代刈谷藩主・水野勝成が城主の頃）

工事概要 石垣：面積…約1,620㎡

高さ…約2.4～7.3m

積み方…打ち込みハギ

建築物：辰巳櫓（2層3階）、多門櫓の一部

延床面積…約140㎡

◆刈谷城復元の紹介動画を作成しました

QRでご覧ください。



復元までのスケジュール

年度	主な工事内容
令和8年度	工事着手 作業ヤードの確保や地盤改良工事などを進めます。
令和9年度	石垣工事開始 石積工事を進めます。
令和10年度	石垣完成、辰巳櫓などの建築工事開始 石積工事、木工事、屋根工事などを進めます。
令和11年度	建築工事 荒壁工事などを進めます。
令和12年度	建物完成 荒壁工事、建具設置工事、塗装工事などを進めます。

整備は令和12年度末に完了予定です。途中経過は市HPでお知らせします。

刈谷城復元のために寄付をお願いします

刈谷城を復元し、市固有の貴重な歴史を未来に引き継ぐため、寄付を募っています。

皆さまからの温かいご支援により、10月1日現在、寄付金の総額は8500万円に達しました。誠にありがとうございます。

公園整備課に設置している募金箱やPayPayでご寄付いただけます。詳細は、市HPをご覧ください。



刈谷藩と城下町についてもっと詳しく！

歴史博物館の歴史ひろば「刈谷藩と城下町」のコーナーでは、江戸時代中期の刈谷城周辺のジオラマ模型を展示し、刈谷藩主や城下の人々の暮らしなどを分かりやすく紹介しています。

問 歴史博物館（☎63-6100）ID1001959

